

# 稲作通信9月号

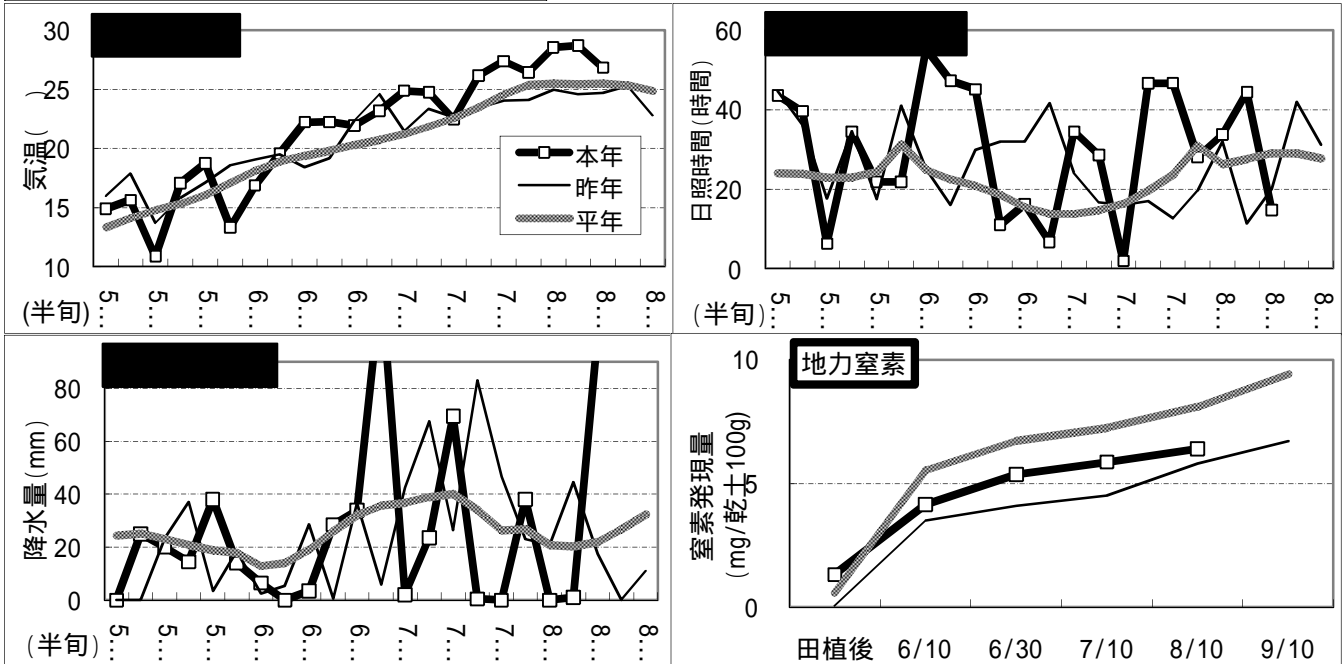
平成22年9月1日  
関川村

## 高品質米生産へのラストスパートで目指せ全量1等米！！



今年は異常高温により、乳心白粒や胴割粒の多発生が懸念されます。登熟期の水管理徹底と適期収穫により、高品質米に仕上げましょう。

### 1 気象の経過と予報



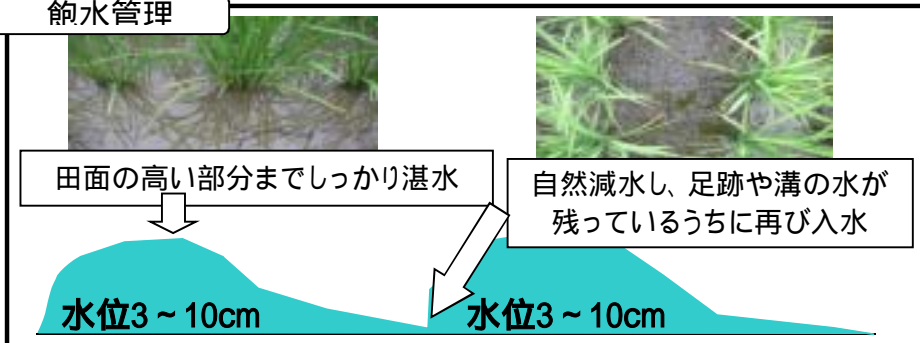
予報では9月は残暑が見込まれており、平年より気温が高くなる予想です。

### 2 水管理

土壤水分が低すぎると地力窒素が出にくいいため、後期栄養不足となり未熟粒の多発生に

早期落水は下葉の枯れ上がりを誘発し、登熟不良、乳心白粒等の増加につながります。完全落水（水尻・暗渠開放）は出穂後30日を目安にしてください。梅雨明け後の少雨により渇水が心配されます。用水の有効利用をお願いします。

#### 飽水管理



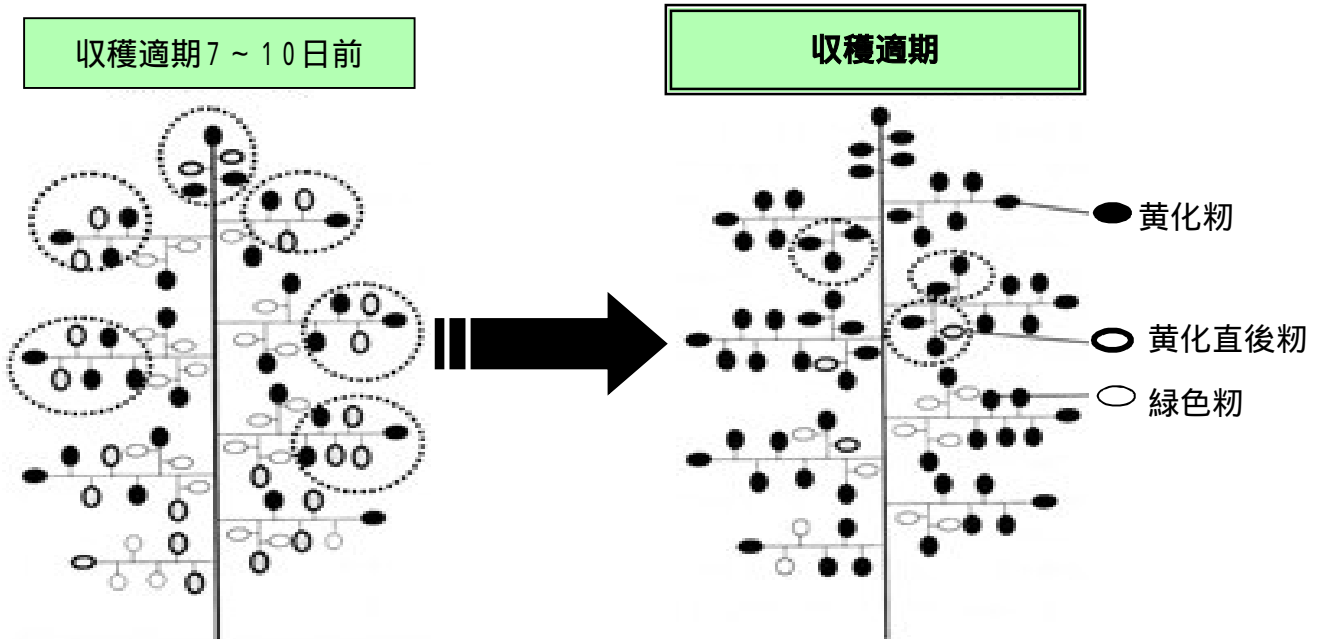
用水のかけ流しは絶対に行わない。  
水尻は確実に閉め、畦畔に漏水がないか良く確認する。  
用水の通水日を確認

### 3 適期収穫

今年はお穂期以降高温が続いているため、刈り遅れによる胴割粒の発生が懸念されます。良くほ場を観察し、適期収穫により胴割れ粒の発生を防ぎましょう。

#### (1) 収穫適期の目安

収穫適期は、籾黄化率が85%~90%になった頃です。登熟期間が高温で経過すると成熟期が早まるので刈り遅れに注意してください。



点線内の籾(上・中位1次枝梗籾)が黄化した時

点線内の籾(上位3~4本目の1次枝梗に着生する2次枝梗籾)が黄化した時

肥沃地や多肥栽培では茎葉や穂軸が青くても籾は成熟している場合がある一方で、やせ地などでは茎葉や穂軸が黄化しても籾は熟していない場合があるので、注意してください。

#### (2) 出穂後の積算温度による収穫適期の目安

(下関アメダスより)

品種名	出穂期	積算温度	予想収穫適期	備考
五百万石	7月30日	975	9月5日	8月22日以降は平年の気温をもとに計算しています。
こしいぶき	8月2日	975	9月9日	
こがねもち	8月6日	1000	9月15日	
コシヒカリ	8月10日 8月15日	1000 1000	9月21日 9月28日	

本年のコシヒカリの出穂期は8月10日頃で平年より早めとなっています。

品種の熟期構成、機械・施設的能力、労働力、天候などを総合的に判断して、収穫作業にあたるようにしてください。

共同・個人防除で使用しています、ブラシンジョーカー(フロアブル・粉剤)の使用時期は収穫21日前まで、スタークル(液剤10・粉剤)は収穫7日前までになっておりますので、収穫開始日にご留意下さるようお願いいたします。

## 4 乾燥・調製

乾燥・調製作業は品質や食味に大きく影響を与えます。  
小さなミスでも実需者や消費者からの信頼は揺らいでしまいます。最後まで気を抜かずに丁寧な作業を心がけましょう。

### (1) 仕上げ水分は15%が目標です！

14%以下では過乾燥で、胴割れを助長し、食味も低下します。

15.5%以上では保管中にカビの発生の可能性があります。

毎時乾減水分のめやす		乾燥温度設定のめやす	
通常乾燥	毎時0.8%以下	初期水分28%	乾燥温度40 以下
フェーンや刈遅れの場合	毎時0.5%以下	初期水分24%	乾燥温度50 以下

変質米防止のため、収穫後はすぐに乾燥機に張り込み、通風しましょう。

乾燥機の送風温度が高いほど食味が低下します。

### (2) フェーン時の対応

フェーン現象時は日中の湿度も低下し、乾燥機の乾燥速度を低くしても、実際の乾燥速度は著しく速くなります。

フェーン時は日中の加温乾燥は避け、常温で通風乾燥を行ってください。

夜間温度が下がってから点火し、送風温度は低めに設定してください。

水分のバラツキが大きく、立毛中に水分が18%以下まで低下したものが見られる場合は、

## 5 稲こうじ病、墨黒穂病対応

近年、稲こうじ病・墨黒穂病の発生が見られます。これらに汚染された玄米は検査で規格外となるため、発生が確認されたら混入防止対策を実施しましょう。

### 混入防止対策

高水分時の刈り取りは避け、晴天下の乾燥条件で刈り取りを行い、罹病籾の混入を防ぐ。

収穫、乾燥、調製作業は、発生が多いほ場と少ないほ場で別に行う。

粗選機を使用し、稲こうじ粒を可能な限り除去し、玄米への混入を防ぐ。

収穫後や乾燥・調製作業時に混入状況を確認する。

肌ズレを起こすと、そこに胞子の付着が多くなるため、籾すりは籾の温度が室温まで下がってから

**前年度多発生したほ場では、特に発生状況をよく確認してください。**

## 6 その他

異品種混入防止のため、品種が変わるごとにコンバイン、乾燥機、籾すり機、ライスグレーダー、自動計量器の清掃を確実に行いましょう。



収穫後に使用した、石灰窒素などの肥料や除草剤は、次年度のものとしてカウントされます。